

【戦略プロジェクト評価(平成30年度)】

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクト名	みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト
期待する効果	盛岡で子どもを産み育てたいと思われるまちになる
重点取組期間	平成30～32年度
主管部等名	子ども未来部
戦略プロジェクト統括マネージャー	藤澤忠範 子ども未来部長

戦略プロジェクトに取り組む背景	戦略プロジェクトの取組の内容
生産年齢人口の減少が進む中、活力ある社会を築いていくため、若い世代にとって暮らしやすい、子育てがしやすい、また女性にとって社会進出がしやすいなど、若い世代や女性が住み続けたいとなるまちをつくることが本市の重要課題となっている。	若い世代や子育て世代が、希望を持って子どもを産み育てることができるよう、さまざまな保育ニーズに柔軟に対応するための支援を行うなど、子育て環境を充実する。 また、子育ての相談や子どもの健全な成長を支援する体制の充実を図り、盛岡に住み続けたいと思える、安心して子育てのできるまちを実現する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
子育てをしている人 子ども	子育てしやすいと感じ、子育てに関する不安が少なくなる。 家庭環境や経済状況によらず、健やかに育つ。

目標指標の状況・評価(平成30年7月時点)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 待機児童数(1月1日現在)				「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
当初値(H27)	0	H32目標値	0	目指す方向	↘
				<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所、小規模保育所、企業主導型保育事業所等の定員拡大を進め、平成30年4月入所に向けて165名の定員拡大を図った。 ・保育事業者の協力を得て、定員を超えて89名の児童が保育所に入所できた。 ・保育士奨学金返済補助事業により、99名の保育士の奨学金の返済に補助を行い、経済的支援により保育士の離職防止に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人等からの保育所開設の相談に応じるとともに、幼稚園へ認定こども園への移行や認可外保育所へ地域型保育事業への転換に対する積極的な働きかけ、助言・指導を行ってきたことが定員拡大に繋がっている。 ・保育士が働き続けられるよう処遇改善や、出産・育児との両立支援など潜在保育士が現場復帰しやすい環境づくりに取り組んできたことが保育士確保に繋がっていると考える。
指標② まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合				「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
当初値(H27)	22.0	H32目標値	13.6	目指す方向	↘
				<ul style="list-style-type: none"> ・保育需要の増加が急速なペースで進行していることから、待機児童の解消の取り組みが追いついていない。特に盛南地域、都南地域が問題となっている。 ・保育所の定員の拡大とともに保育士の確保が課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会進出や育児休業後職場復帰するため保育所入所希望者が増加していること。 ・処遇改善に積極的に取り組んでいる。関東地方の都市に保育士が流れてしまっていること。
指標③ まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合				「指標の目指す方向」に向けて特に寄与している点	特に寄与している点の要因分析
当初値(H27)	13.3	H32目標値	42.0	目指す方向	↗
				<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年4月に、新たな子育て支援の拠点施設「もりおか子育て応援プラザma*mall」を開設し、29年度は7,150人の利用があった。 ・乳児家庭全戸訪問の訪問率が向上した(28年度実績90.3% 29年度実績95.2%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もりおか子育て応援プラザの開設により、子育て中の親子の交流が促進された。子育て支援ニーズに関するアンケート調査では、充実を望む支援策として「子連れでもでかけやすく楽しめる場所」を求める声が70.1%と高いことから、施設を充実させて利用者を増やすことが、子育ての不安感や孤立感の解消につながるものと考えられる。 ・訪問体制を整えたことで、訪問率が向上した。産後の女性の支援ニーズに関する調査において、産後に利用したサービスは「専門職による赤ちゃん訪問」がもっとも多く、「産後の不安・心配あり」「産後の不安・心配なし」のそれぞれの群に分けた比較では、「不安・心配あり」群が「不安・心配なし」群の2.7倍「専門職による赤ちゃん訪問」を利用していたことから、訪問率を上げることが、子育て不安の解消につながるものと考えられる。
指標④ まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている子育て中の市民の割合が増加傾向にある。」				「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てをつらいと感じている子育て中の市民の割合が増加傾向にある。 				<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化の進行を背景に、子育て支援ニーズが多様化・複雑化しており、妊娠期・出産期から就学期に至るまでの切れ目のない支援と、社会全体で子育てを支える機運の醸成が求められているが、子育ての負担感を改善しうる水準に至っていない。 ・児童数が増加している盛南地区において地域子育て支援拠点が不足している。 ・「産後うつ」にかかりやすい産後間もなくの時期の支援体制が必要となっている。 	
指標⑤ 「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合が横ばい状態である。				「指標の目指す方向」に向けた問題点	問題点の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた待機児童0の達成に至っていない。 ・医療費給付事業について、市民等から次の要望があり、検討が必要である。 自己負担額の全額無料化 小学生までの現物給付の実施 				<ul style="list-style-type: none"> ・「もりおか子育て応援プラザの開設により、子育て中の親子の交流が促進された。子育て支援ニーズに関するアンケート調査では、充実を望む支援策として「子連れでもでかけやすく楽しめる場所」を求める声が70.1%と高いことから、施設を充実させて利用者を増やすことが、子育ての不安感や孤立感の解消につながるものと考えられる。 ・社会全体で子育てを支える機運が高まり、民間の子ども・子育て支援の取組が活発化したため。 ・地域型保育事業や企業主導型保育事業等多様な保育事業が生まれ、保育事業を検討している法人等が参入しやすくなったと思われる。 ・将来にわたって継続的に実施するための財源の目処がたったことによる。 	

今後の展開(評価時点～平成31年度)

評価を踏まえた今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ☆1 待機児童が多く発生している盛南地域、都南地域に重点的に保育施設の定員を確保する。 ☆2 保育士の確保に向けて、雇用環境の改善に重点的に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ☆1 児童数が増加している盛南地区への地域子育て支援拠点の開設を検討する。 ☆2 30年度から実施しているアウトリーチ型の「産後ケア」及び産婦人科医療機関での「産婦健康診査」費用の助成制度を継続する。 ☆3 30年度から、身近な場所で子どもや保護者に寄り添って継続的な相談・支援を行なう子ども家庭総合支援センターを設置し、28年度に設置した子育て世代包括支援センターと一体的に、愛称「子ども未来ステーション」として運営することで、妊娠期からの切れ目のない相談支援体制の構築を図ったところであり、今後この体制により寄り添った支援体制を進める。
<ul style="list-style-type: none"> ☆1 児童数が増加している盛南地区への地域子育て支援拠点の開設を検討する。 ☆2 子ども未来基金を活用した補助制度の予算を増額し、個人・団体による子ども・子育て支援活動のさらなる促進を図る。 ☆3 年間を通じた待機児童の解消に向けて、「盛岡市待機児童対策緊急プロジェクト」として、保育定員の拡大や保育士確保に重点的に取り組む。 ☆4 医療費給付事業の拡大について、継続的に検討を行う。 ・未就学児の全額無料化について、年間医療費の試算などを行い、確実に実施できるかを検討。 ・医療費給付事業の現物給付方式導入は、県及び県内市町村が統一して行っていることから、県内市町村と連携を図り、県に現物給付方式の導入を要請。 ・国民健康保険国庫負担金の減額措置撤廃について、全国市長会、中核市市長会、県市長会を通じて引き続き要望。

(余白)